

岐阜新聞真学塾

出題 蜚雪ゼミナール 大垣駅前校・築樋拓真

問題【国語】

以下の文を読み、後の問いに答えなさい。

筑紫に、なにがしの押領使などいふやうなるものありけるが、土大根を方にいみじき薬とて、①朝ごとに二つづつ焼きて食ひける事、年久しくなりぬ。

ある時、館の内に人もなかりける暇をはかりて、敵襲い来りて囲み攻めけるに、館の内に兵二人出でて来て、命を惜しまず戦ひて、皆追ひかへしてげり。いと不思議に覚えて、「白比ここにもものし給ふとも見ぬ人々の、かく戦ひし給ふは、いかなる人ぞ」と問ひければ、「年来頼みて、朝な朝な召しつる土大根らにさぶらふ」といひて失せにけり。深く信をいたしぬれば、②かかる徳もありけるにこそ。

注：筑紫…今の福岡県 押領使…役人

問1：下線部①について、なぜなにがしの押領使は毎朝大根を二つづつ食べていたのか答えなさい。

問2：下線部②について、かかる徳とはどのようなことか答えなさい。

豆知識 雑学コラム

大根、思わぬご利益

寒い時期になり、おでんのおいしい季節となりました。おでんに欠かせない具材の一つに大根がありますよね。大根は弥生時代には日本にあったと言われ、奈良時代に書かれた日本書紀にも出てくる日本人になじみのある食材です。今日は徒然草の中に出てくる大根について書かれたエピソードを読んでみましょう。

昔、筑紫の国にいたある押領使が、大根があらゆる病に効く薬だと信じて、毎朝二つづつ焼いて食べていました。ある時、屋敷に人がいない隙を狙って敵が襲来してきました。その時、誰もいないはずの屋敷の中から2人の侍が出てきて、命がけて戦い、敵を追い返してしまいました。押領使は不思議に思って、2人の侍に「どなたですか？」と尋ねたら、「長年、朝食べてきた大根です」と答えて消えてしまった。以上がこの話です。大根には病気以外にも思わぬご利益があったんですね。

さて、徒然草では良いものとして描かれている大根ですが、清少納言は大根が嫌いだったようで「枕草子」の「えせ者の所得るをり（大したものではないのに幅を利かせているもの）」に平安時代の慣習にあった「お正月に食べる大根」を挙げています。ご利益を信じて大根を食べる押領使と大根を嫌がる清少納言。いきいきとした描写を想像できてしまいますね。

【解答】

問1：大根があらゆる病に効く薬だと信じていたから

問2：食べていた大根が侍になって現れ、屋敷に来た敵を倒したから